

ポスト13000年

観光

「はじまりの奈良・めぐる感動」を台言葉にした平城遷都1300年祭が終わった。同祭はメイン会場となった平城宮跡での事業のほか、県内各地の歴史や文化に新たな光を当てた「巡る奈良事業」では、県内全域の地域の伝統行事や社寺の秘宝・秘仏特別開帳などが展開され、奈良を全国、そして世界にアピールした。これらの事業の運営は数多くのボランティアによって支えられ、同祭の成功に大きく貢献した。この実績を踏まえ、ポスト13000年の新たな奈良のあり方、とりわけ観光事業の今後の展望について、奈良県知事・荒井正吾氏と新明社長・NPO法人奈良元気もんプロジェクト理事長の乾昌弘氏にボランティア活動を語り合ってもらった。

ボランティア活動を語る

魅力に目覚めた

「平城遷都1300年祭」

乾 1年間関わった平城遷都1300年祭が終わりました。ポスト13000年へとつなげていくことが課題になっています。まず平城遷都1300年祭を無事に終えた現在の心境についてうかがいたいと思います。

荒井 無事に終わり、ほっとしているところです。平城遷都1300年祭はいろいろな工夫を凝らしていただき、結果として多くの人に来ていただきました。奈良の本質に気づいていただくとともに、奈良県民に奈良の魅力の本質に目を向けていただくと、人が来るのかどうか、あるいは観光客が来るのかどうかというところ、地方のイベントのグレードが高まるように感じました。その点ではよかったと思います。平城遷都1300年祭は、事業規模としては小さい方ですが、1300年前の古い国家の姿を現代に伝えるという点で、関係者として関わっていただいたこと、経団連の会長に事業推進委員長を引き受けていただいたことが事業を進めていくうえで大きかったです。そして、天皇陛下のご臨席を賜り、お言葉をいただいた記念祝典がハイライトであったと思います。それと、約2年がかりで「考える」というテーマでまとめた平城京レポートも成果としてあげられるのではないかと思います。

ボランティアの力

成功に大きく貢献

乾 私は、県内一円で奈良を盛り

民間パワーで新風

荒井 1年間を通じてボランティアの方々にはたいへんお世話になりました。平城遷都1300年祭の成功に大きく貢献していただきました。これからも民間のパワーで、奈良県に新しい風を吹き込んでいきたいですねとを期待しています。

ボランティア目標

乾 今回のボランティアは、2009年大みそかの力ワンタウンから、2010年1年間を通じて春・夏・秋・冬の奈良祭マラソン、フィナーレイベントまで様々なところで活躍しました。そして1300年祭を終え、私自身は1300年祭の一番の財産は、こういっていいかと思う。一番の成果は私も含めて奈良に住む人が奈良の良さを人々に伝えること、自ら奈良の良さを改めて知り、奈良をより愛する機会になったということではない

サービシに境界

乾 今回のボランティアは、2009年大みそかの力ワンタウンから、2010年1年間を通じて春・夏・秋・冬の奈良祭マラソン、フィナーレイベントまで様々なところで活躍しました。そして1300年祭を終え、私自身は1300年祭の一番の財産は、こういっていいかと思う。一番の成果は私も含めて奈良に住む人が奈良の良さを人々に伝えること、自ら奈良の良さを改めて知り、奈良をより愛する機会になったということではない



奈良県知事
荒井 正吾 氏

東京大学法学部を卒業。1968年運輸省入省、OECD日本政府代表部参事官、観光部長、鉄道局審議官、自動車交通局長、海上保安庁長官を経て参議院議員。2007年から現職

成長と活性化に挑戦

乾 成長と活性化に挑戦。これは奈良の観光事業で最も反響するべき点は、観光資源を十分に活かしてこなかったという点です。それが同じように、観光は携わる人たちの課題として、とくに観光を推進している人たちは「財布を揃ってため、心を揃え」といふことが言われています。その点で、ボランティアというものは大きな意味があると思います。また、ボランティアの方々に聞いていたために、お客さまの満足度を中心にサービスを提供しなければなりません。ではどのようなサービスと内容のサービシを提供するのかが重要なポイントです。一人一人のお客さまのニーズに応じた満足度を引き出していくことが心をつなぐべき点だと思います。

おもてなしに満足

乾 今回のボランティアは、2009年大みそかの力ワンタウンから、2010年1年間を通じて春・夏・秋・冬の奈良祭マラソン、フィナーレイベントまで様々なところで活躍しました。そして1300年祭を終え、私自身は1300年祭の一番の財産は、こういっていいかと思う。一番の成果は私も含めて奈良に住む人が奈良の良さを人々に伝えること、自ら奈良の良さを改めて知り、奈良をより愛する機会になったということではない

周遊型観光のあり方追求

乾 今回のボランティアは、2009年大みそかの力ワンタウンから、2010年1年間を通じて春・夏・秋・冬の奈良祭マラソン、フィナーレイベントまで様々なところで活躍しました。そして1300年祭を終え、私自身は1300年祭の一番の財産は、こういっていいかと思う。一番の成果は私も含めて奈良に住む人が奈良の良さを人々に伝えること、自ら奈良の良さを改めて知り、奈良をより愛する機会になったということではない



新明新代表取締役社長
NPO法人
奈良元気もんプロジェクト
理事長

乾 昌弘 氏

1961年生まれ。奈良市出身。86年同志社大学商学部卒業。86年新明印刷(現：新明新社)に入社し、2002年から現職。09年3月、自らを「MASAくん」というキャラクターにして、ならクワターショップ絵図屋を開店。奈良青年会議所理事長、日本青年会議所近畿地区協議会会長などを歴任。他にNPO法人観光深研社なる理事長、新明シニアエフエムコミュニケーションズ取締役会長、奈良イベント事業協同組合理事長、同納税協会連合会青年部会連絡協議会会長などを務める

観光資源を活かし

滞在型観光立県へ

乾 これらのことを含めて、私は平城遷都1300年祭は大成功だったと思います。これからは奈良県は観光に力を入れ、奈良にある多くの観光資源を活かしていくことで、観光資源を活性化して観光を推進していくことが必要ではないかと思っています。その場合、滞在型観光を考えた方がいいと思います。以前から言われていることではありますが、奈良は滞在型観光を考えた方がいいと思います。奈良は観光資源が豊富にあり、文化的な環境を整備すれば経済面で大きく貢献します。その意味で、奈良の観光資源は観光の本質であると考えています。

「せん」とくん」の角

外部へのアンテナ

荒井 様々な施策が考えられます。一つはマスコミやキャラクター「せん」とくん」の活用です。「せん」とくん」は、誕生したときは地元の人気が認められ、外部の人たちにも人気を博して利用されています。結果としてはありがたく利用されています。ただ、奈良は観光資源が豊富にあり、文化的な環境を整備すれば経済面で大きく貢献します。その意味で、奈良の観光資源は観光の本質であると考えています。



奈良2010年祭平城式で平城京状を渡す乾理事長

NPO法人奈良元気もんプロジェクト

奈良の持つ良さを生かした「できごと」イベントや祭りを活用し、これらを支える文化制作ボランティア「奈良元気もん」を育成することをミッションとして、「できごと」を通して地域の活性化を図る活動を行う特定非営利活動法人。